

河北新報

7月14日(水)

仙台藩祖伊達政宗が幼少期を過ごした山形県高島町の町観光協会は24日、仙台市青葉区の河北新報社1階ホールで「伊達政宗のふるさと講座」を開く。伊達家ゆかりの地を県境を超えてPRし、観光客誘致につなげようという初の企画で、受講者を募っている。

講座では、同町文化財保護委員の島津憲一さんと、同町に自宅がある宮城大事業構想学部の宮原育子教授(地域資源論)が各1時間、「政宗のふるさと高島」「政宗の歴史を訪ねて」をテーマに講演する。

伊達家は8代宗遠が1380年、置賜地方を支配していた長井氏を滅ぼし、その後162年間、高島城を居城とした。17代の政宗は、梵天(ぼんてん)丸と名乗った幼少期、高島町に当時あった資福寺で虎哉(こさい)禅師から為政者としての基礎を学ぶなど、高島町とゆかりが深い。

同町観光協会は本年

政宗のルーツ知って

幼少期過ごし虎哉禅師に学んだ地

24日 山形・高島町が仙台で講座

度、町の歴史を生かし、最近の戦国武将ブームにも乗って誘客を図ろうと「伊達家のふるさとキャンペーン」を展開。6、11月の計21日間、仙台市青葉区の勾当台公園市民広場で観光物産市を開くなどアピールしている。

9月11、18、25日には、同町に残る伊達家ゆかりの地を巡り、郷土料理や旬の果物を味わう仙台発着の日帰りバスツアーも計画している。

戸田一郎事務局長は「高島町と仙台・宮城のつながりを多くの人に知ってもらい、町を訪れてほしい」と話す。

講座は午後1時～3時半で聴講無料。事前申し込みが必要で先着100人。締め切りは20日。連絡先は同町観光協会02338(57)3884